

資料・統計

2005年中央手術部手術統計

Annual Report of Operations in 2005

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 外科		切除	289
乳癌		全摘	53
外来手術		残胃全摘	10
乳腺		噴門側切除	8
乳腺		幽門側切除	171
乳腺		PPG, 分節切除	28
入院手術		SLR	19
甲状腺, 副甲状腺		非切除	0
乳腺		再発	10
良性		膵頭十二指腸切除	1
乳輪下膿瘍		肝転移切除	2
乳癌		リンパ節郭清	2
Auchincloss		局所切除	1
Mastectomy+SLNB		人工肛門	3
Simplemastectomy		バイパス	1
Lumpectomy+Ax		イレウス	8
Lumpectomy+SLNB		腸切除	1
Lumpectomy		癒着剥離	6
Lumpectomy		人工肛門造設	1
その他		非上皮性腫瘍	
局所再発 (リンパ節, 創)		GIST	8
温存乳房切除		悪性リンパ腫	0
断端陽性		その他	0
乳房内再発		潰瘍	2
後出血		その他	6
その他			
食道		肝腫瘍	
良性腫瘍		肝細胞癌	13
非上皮性腫瘍		ラジオ波・TAE・ノバリス	3
食道癌		肝内胆管癌	4
右開胸		転移性肝癌	8
左開胸		ラジオ波・動注・ノバリス	6
開腹		肝良性腫瘍	1
遊離空腸移植		胆道癌	
食道抜去		十二指腸乳頭部癌	5
		胆嚢癌	4
		胆管癌	8
胃		膵臓疾患	
胃癌		膵臓癌	23
Staging laparoscopy		バイパス	6

その他腫瘍		
十二指腸癌	3	
膵腫瘍	1	
I PMT	5	
脾腫瘍	4	
後腹膜腫瘍	1	
小腸腫瘍	4	
胆嚢ポリープ	1	
その他		
膵胆管合流異常	1	
慢性膵炎	4	
胆管狭窄	2	
胆石症	17	
イレウス	2	
腹壁ヘルニア	3	
その他	23	
計	137	15
原発	182	
結腸悪性	107	
右半結腸切除		50
S状結腸切除		35
結腸部分切除		6
横行結腸切除		6
右結腸切除		3
下行結腸切除		3
回盲部切除		2
左半結腸切除		1
亜全摘		0
非切除		1
結腸良性	0	
直腸悪性	75	
低位前方切除		27
超低位前方切除		18
前方切除術		14
経肛門的切除		6
直腸切断術		5
ハルトマン手術		4
骨盤内臓全摘術		0
非切除		1
直腸良性	0	
再発	18	
肝切除		12
骨盤内臓全摘術		3
低位前方切除術		2
リンパ節郭清		1
直腸切断術		1

肝転移	16 (上記原発再発症例に含まれる)
異時	12 (上記再発例に含まれる)
同時	4 (上記原発例に含まれる)
その他の手術	30 (内緊急手術 8)
他科癌・他癌	12
結腸部分切除	4
経肛門的切除	2
人工肛門造設	2
右半結腸切除	1
回盲部切除	1
腹会陰式直腸切断術	1
腫瘍摘出術	1
人工肛門閉鎖術	9
腹膜炎手術	5
腹壁癒痕ヘルニア	5
腸閉塞手術	4
人工肛門造設術	1
S状結腸憩室	1
骨盤内腫瘍摘出術	1
虚血性腸炎手術	1
経肛門的摘出術	1
直腸粘膜脱手術	1
血管吻合	1

2005年の外科手術件数は入院1177件で昨年と同数であった。外来手術は31件で6件減少した。各臓器別手術件数は乳腺377件、食道42件、胃342件、肝胆膵152件、直腸・結腸230件、その他34件であった。乳癌は359件で58% (昨年は70%) が乳房温存手術であった。食道癌は33件と9件減少した。胃癌切除は289件で15件増加した。幽門側切除が17件増加し、全摘・PPG・分節切除の割合は前年並みであったが切除不能は0件であった。Staging laparoscopyが27件 (昨年は8件) 著増した。結腸・直腸手術は14件減少した。直腸癌12件増加したが原発性の結腸癌が16件減少・再発手術は10件減少した。肝胆膵は2004年から肝癌の手術が減少し、胆道癌手術は例年並みであった。膵癌症例が増加している。ここ数年はクリニカルパス運用の定着化と縮小手術の増加により術後入院日数が短縮している。

(文責 土屋嘉昭)

2. 呼吸器外科

1	気管(支)疾患	0
2	肺疾患	228
2-1	良性肺疾患	7
	炎症性肺疾患	3(2)
	良性肺腫瘍	4(1)
2-2	悪性腫瘍	221
2-2-1	原発性肺癌	202
	全摘除	0
	肺葉切除	125(25)
	区域切除	47(0)
	部分切除	24(3)
	再発肺癌	0
	気管支切除	1
	試験開胸	4
	審査開胸	2
2-2-2	転移性肺腫瘍	17
	結腸直腸癌肺転移	14(5)
	骨軟骨部腫瘍肺転移	1(0)
	肺癌転移	2
2-2-3	他	2(1)
3	縦隔疾患	14
3-1	縦隔腫瘍	12
	胸腺腫	7(3)
	奇形腫	1(1)
	胚細胞性腫瘍	1(1)
	神経性腫瘍	1(1)
	他	2
3-2	縦隔鏡検査	2
4	胸膜疾患	12
	気胸	7(6)
	膿胸	2
	胸膜生検	2(2)
	他	1
5	胸壁疾患	2

(): 胸腔鏡手術

2005年の手術数は256件で、昨年より減少した。審査開胸を除いた原発性肺癌手術例は202例で昨年より減少したが、2年続けて200を越えた。今年は全摘が1例もなく、進行例は減少してきている。胸腔鏡併用手術は増加しており、今年はVATS併用下肺葉切除が昨年の5倍の25例に行われた。従来通り、2cm以下の肺癌には積極的に区域切除などの縮小手術を

行っている。縦隔腫瘍でも、良性腫瘍には胸腔鏡手術を積極的に行っている。転移性肺腫瘍は、この数年ほぼ同様の手術数で、直腸結腸癌の肺転移が多くを占めている。(文責 大和 靖)

3. 整形外科

腫瘍性疾患		
良性軟部腫瘍		
	切除術	112
	切除術+皮弁	2
良性骨腫瘍		
	生検	6
	切除術	6
	切除または搔爬+骨移植	13
小計		139
悪性軟部腫瘍		
	広範切除	11
	広範切除+筋皮弁、遊離組織移	6
	切除・生検	13
小計		30
悪性骨腫瘍		
	広範切除	3
	広範切除+人工関節等の再建術	3
	切除・生検	8
小計		14
脊髄腫瘍		3
転移性腫瘍		
脊椎		
	椎弓切除+後方固定	5
	腫瘍切除+前方固定	1
	後方固定	1
	脊椎生検	4
四肢転移性腫瘍		
	切除+再建	11
体幹部転移性腫瘍		
	切除	5
小計		27
非腫瘍性疾患 脊椎疾患		
	ラブ法	14
	腰椎椎弓切除	4
	腰椎後方除圧固定	6
	頸椎後方拡大術	4

頰椎前方除圧固定	1
小計	29
股関節疾患	
人工関節置換術	8
人工関節再置換術	6
人工骨頭置換術	5
人工関節置換術後脱臼整復	4
小計	23
膝関節疾患	
人工関節置換術 全置換	24
人工関節置換術 単顆置換	2
人工関節再置換術	1
靭帯修復術	1
関節鏡視下滑膜切除	5
関節鏡視下半月版切除	6
関節鏡検査	2
骨長調整術	2
遊離体摘出	1
高位脛骨骨切術	1
小計	45
肩関節疾患	
腱板縫合術	1
制動術	1
関節鏡視下滑膜切除	1
人工肩関節置換術	1
小計	4
肘・手関節疾患	
腱鞘切開	16
手根管開放術	9
滑膜切除	3
人工肘関節置換術	1
ディプロイトラン手術	1
関節固定・形成術	1
神経剥離	1
小計	32
足・足関節疾患	
関節鏡視下滑膜切除	1
外反母趾矯正骨切術	2
陥入爪	1
アキレス腱縫合	1

小計	5
その他	
骨接合術	13
抜釘	11
デブリードマン	21
異物除去	2
小計	47

合計 398

合計に対する腫瘍性疾患の比率は53.5%であった。そのうち良性腫瘍65.3%、悪性腫瘍20.7%、転移性腫瘍12.7%、脊髄腫瘍1.4%であった。腫瘍性疾患数は昨年より増加した。

人工関節手術は昨年並みであった。(畠野宏史)

4. 脳神経外科

1. 脳腫瘍	
脳腫瘍摘出術	38
シャント	3
その他	14
2. 脳血管障害	
血腫除去	2
減圧術	1
その他	1
3. 頭部外傷	
血腫除去術	10
その他	3
4. その他	3
計	75

全体に手術件数は順調に伸び、脳腫瘍摘出術は38例にも増加し、NOVALISの宣伝効果とも考えられた。(文責 吉田誠一)

5. 産婦人科手術統計

腹式子宮全摘出術 (+付属器摘出術など)	66
子宮筋腫	41
子宮腺筋症	2
子宮頸部異形成	3
骨盤内感染症	1
子宮頸癌	0期 13
	I b 1期 2
子宮内膜異型増殖症	2
転移性子宮癌	1

原発不明癌		1
<hr/>		
膣式子宮全摘出術		1
子宮筋腫		1
<hr/>		
準広汎子宮全摘出術		6
子宮頸癌	0 期	1
	I a 1 期	5
<hr/>		
広汎子宮全摘出術		31
子宮頸癌	I b 1 期	11
	I b 2 期	10
	II a 期	1
	II b 期	4
	III a 期	1
子宮体癌	I b 期	1
	II b 期	3
<hr/>		
子宮体癌手術		42
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術 +骨盤リンパ節郭清) (子宮肉腫を含む)		
子宮体癌	I a 期	3
	I b 期	21
	I c 期	7
	III a 期	8
	III c 期	2
	IV b 期	1
<hr/>		
悪性卵巣腫瘍手術		37
(原則的に子宮全摘出術+両側付属器摘出術 +骨盤リンパ節郭清+大網切除術)(卵管癌を含む)		
卵巣癌	I a 期	8
	I c 期	11
	II a 期	1
	II c 期	6
	III c 期	8
	IV 期	3
<hr/>		
SLO (Second Look Operation)		1
卵巣癌		1
<hr/>		
子宮頸部円錐切除術		60
子宮頸部異形成		18
子宮頸癌	0 期	26
	I a 1 期	12
	I b 1 期	1
子宮頸癌疑い		3

LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure) 42

子宮頸部異形成		19
子宮頸癌	0 期	23
<hr/>		
その他の悪性腫瘍手術		28
外陰癌手術		4
外陰Paget病手術		2
膣癌手術		3
再発癌手術		13
試験開腹術		6
<hr/>		
付属器摘出術		63
(付属器腫瘍摘出術を含む)		
<hr/>		
子宮筋腫核出術		29
<hr/>		
子宮脱手術		4
膣式子宮全摘出術+膣壁形成術		3
Richardson Williams手術		1
<hr/>		
腹腔鏡下手術		61
良性卵巣腫瘍		55
乳癌術後(両側卵巣摘出術)		4
悪性卵巣腫瘍		2
<hr/>		
経頸管的切除(TCR)		14
子宮筋腫		7
子宮内膜ポリープ		7
<hr/>		
帝王切開術		14
前回帝王切開		6
胎児仮死		3
骨盤位		3
分娩停止		1
子宮筋腫核出後		1
<hr/>		
子宮内容除去術		10
流産		3
胞状奇胎		3
胞状奇胎再搔爬術		2
人工妊娠中絶		2
<hr/>		
その他		4
子宮頸管縫縮術		1
創瘢痕切除術		1
術後腹腔内出血		1
腸閉塞手術		1
<hr/>		
	計	513

2005年の総手術件数は513件であり、前年の614件

からやや減少した。子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌に対する治療方針に大きな変化はなく、手術件数も概ね例年と同様である。2005年の総分娩数は64件であり、帝王切開率は21.9%であった。分娩数の減少とともに、流産手術も減少している。

(文責：笹川 基)

6. 泌尿器科

悪性腫瘍に対する手術

1. 後腹膜・副腎	(2)
転移性副腎腫瘍 (腎癌、結腸癌)	2
2. 腎細胞癌	(51)
根治的腎摘出術	42
(合併切除 肝1、膵1)	
部分切除・腫瘍核出	8
試験切開、腎動脈結紮	1
3. 腎盂尿管癌	(19)
腎尿管全摘除術	18
尿管部分切除	1
4. 膀胱癌	(194)
根治的膀胱全摘除術	13
回腸導管	12
尿管皮膚ろう	1
膀胱部分切除	3
TUR-Bt (生検を含む)	178
5. 前立腺癌	(394)
根治的前立腺全摘除術	27
針生検 (疑いを含む)	339
TUR-PCa	5
去勢術	23
6. 精巣腫瘍	(17)
高位精巣摘除	16
後腹膜リンパ節郭清	1
7. 陰茎癌	(3)
陰茎全摘	1
陰茎部分切除	2
小計	(680)

良性腫瘍に対する手術

1. 副腎腫瘍	
副腎摘除術	1
腹腔鏡下副腎摘除術	1
2. 後腹膜腫瘍摘除	2
3. 腎摘除術	1
4. 前立腺肥大症TUR-P	23
小計	(28)

腫瘍以外の手術

1. 腎臓	
経皮的腎瘻造設術	22
(原因疾患は良悪を含む)	
2. 尿管	
尿管カテーテル	40
(原因疾患は良悪を含む)	
(カテーテル留置を含む)	
尿管尿管吻合 (他科手術と併施)	8
尿管皮膚ろう	1
他科回腸導管	5
回腸導管ステント	2
3. 膀胱	
膀胱ろう造設	7
膀胱内血腫除去	3
水圧療法	1
4. 尿道	
内尿道切開 (尿道狭窄)	4
5. 陰囊・精巣	
陰囊水腫手術	3
6. 後腹膜膿瘍ドレナージ	1
その他	7
小計	(104)
合計	812

2005年の泌尿器科手術、延べ769名、812件の集計を行った。同一症例で複数回、複数箇所の手術をしている場合があり、これらはそれぞれ1件として表記した。悪性腫瘍の手術の項には生検を含み、その他の手術にも多くの癌患者を含むため、悪性疾患患者の実数を表してはいたないが、悪性腫瘍への特化は年々進んでいる。2004年の882名、908件と比べると手術数が減少した。前立腺生検数が370件から339件へと減少した他、腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌手術数も若干の減少がみられた。(文責 小松原秀一)

7. 皮膚科

悪性腫瘍

悪性黒色腫	22
基底細胞癌	45
有棘細胞癌	19
ボーエン病	26
日光角化症	18
外陰パジェット病	6
皮膚付属器癌	2
悪性軟部腫瘍	2

悪性リンパ腫	18
転移性皮膚癌	6
<hr/>	
小計	164
<hr/>	
良性腫瘍・その他	
<hr/>	
母斑細胞母斑	85
表皮嚢腫(粉瘤)	94
脂漏性角化症	40
脂肪腫	28
皮膚線維腫・軟線維腫	17
脂腺母斑・青色母斑	22
良性皮膚付属器腫瘍	15
血管腫	12
ケラトアcantoma	10
石灰化上皮腫	19
化膿性肉芽腫	17
慢性膿皮症	3
神経線維腫	5
その他	84
<hr/>	
小計	451

全体の手術件数は前年より20件ほど増加した。悪性腫瘍の件数はほぼ横ばいであったが、悪性リンパ腫の確定診断のためのリンパ節生検が急増している。
(文責 竹之内辰也)

8. 眼科

白内障	超音波水晶体乳化吸引術+人工レンズ挿入術	140
	水晶体嚢外摘出術+人工レンズ挿入術	19
緑内障	線維柱帯切除術	6
眼瞼腫瘍	摘出術	5
霰粒腫	摘出術	1
翼状片	切除術+結膜移植術	1
<hr/>		
計		172

昨年と比較しても特に大きな変化はみられなかった。
(文責 難波克彦)

9. 耳鼻咽喉科

悪性腫瘍に対する手術		
<hr/>		
1. 舌・口腔		7
	部分切除	6
	切除+再建	1

2. 中・下咽頭		3
	切除+再建	3
3. 喉頭		10
	レーザー手術	4
	全摘	6
4. 甲状腺		44
	葉切除	38
	亜全摘	4
	全摘	2
5. 頸部		11
	転移性リンパ節切除	2
	頸部郭清	9
6. 唾液腺		3
	顎下腺腫瘍切除	2
	耳下腺腫瘍切除	1
<hr/>		
小計		78

良性腫瘍に対する手術

1. 口腔・口唇腫瘍切除		3
2. 鼻・副鼻腔腫瘍切除		1
3. 喉頭		6
	声帯ポリープ・結節切除	2
	肉芽腫・乳頭腫	4
4. 甲状腺		11
	葉切除	9
	亜全摘	1
	核出	1
5. 唾液腺		10
	顎下腺摘出	4
	耳下腺部分切除	6
6. 副甲状腺腫瘍摘出		1
7. その他		3
<hr/>		
小計		35

その他

1. 生検		86
	口腔・咽頭	14
	喉頭	39
	甲状腺	2
	頸部リンパ節	28
	副鼻腔	3
2. 気管切開		10
3. 食道ブジー		2
4. その他		1
<hr/>		
小計		99

例年に比べ悪性腫瘍手術が減少していた。再建を要する切除術および喉頭全摘、甲状腺手術がやや少なかった。適応症例が少なかったものと推測されるが、甲状腺に関してはマンパワーの減少のためと思われる。

(文責 長谷川 聡)